

大手前大学 公開講座 阪神文化へのいざない～学んで体感・阪神間～

平成23年度

歴史と文化の旅

阪神間に位置する大手前大学。その豊かな歴史や文化に囲まれていることに特に着目して、阪神間の文化や風土に関しての学びを基本コンセプトに、公開講座「阪神文化へのいざない～学んで体感・阪神間～」を昨年度から開設いたしました。

シリーズ第1弾の「味覚と文芸」(平成22年度)に続き、平成23年度は阪神間における文化的資産に着目した「歴史と文化の旅」を開講いたします。なお、講座は4つの章立てからなり、いずれも講義形式と見学または体験学習のような参加型ワークショップの計2回の構成となっております。受講生の皆様には大いに楽しんでいただけるものと思います。また、平成23年度からは、講義形式のみの受講も受け付けます。お誘いあわせの上どうぞ奮ってご参加ください。

第1章 甲子園球場と観光開発の歴史

大手前大学教授 四方啓暉
大手前大学非常勤講師 田中義次

4月 阪神間発展の中心的な役割として、また日本のスポーツ発展に大きく貢献し現在は高校野球と阪神タイガースにより全国に知られている甲子園球場を改めて考察し、阪神間の壮大な観光開発計画とその中心となる甲子園球場が、期待され果たしてきた役割等を約90年の歴史と共に考察する。

5月 ～甲子園球場視察と歴史館訪～

2009年再度の大規模改築を終え、新たに生まれ変わった甲子園を訪ね、球場関係者によるガイダンスと共に、日ごろ目にする事の出来ない諸施設を見学する。併せて同時に開館した「甲子園球場歴史館」も訪ね、球場の歴史のみならず全国高校野球そして阪神タイガースの歴史を映像並びに展示資料と共に楽しみ、理解を深める。

※試合日程の都合で4月と5月の内容を入れ替ることもあり得ます。ご了承ください。

4/16
5/21

6/18
7/16

第3章 阪神間の近代建築

大手前大学教授 川窪広明

9月 商都・大阪と港町・神戸の間に位置する地域、いわゆる「阪神間」は、明治以降、リゾート地や住宅地として発展してきました。現在でもここには、遠藤新、置塩章、そして村野藤吾といった日本人建築家の作品の他、フランク・ロイド・ライト、ウィリアム・メレル・ヴォーリズといった外国人建築家の作品が残されています。本講義では、阪神間の近代建築を紹介するとともに、文化との関わりや建築の将来について考えてみたいと思います。

10月 ～ヨドコウ迎賓館（旧山邑邸）の見学～

阪急・芦屋川駅近くの丘の上に建てられた旧山邑邸は、アメリカの建築家、フランク・ロイド・ライトの設計による建物です。現在はヨドコウ迎賓館として一般公開されていますが、鉄筋コンクリート造の建物としては、初めて国の重要文化財に指定（1974年）された建物もあります。この旧山邑邸を訪れ、ライト建築を見学するとともに、当時の生活を思い描いてみたいと思います。

9/17
10/15

11/19
12/17

第4章 ジャズの魅力を味わいませんか

大手前短期大学 野坂純子
関西JAZZ協会事務局長 澤崎致

日本のジャズは、大阪・神戸を発祥の地とし、いわば阪神間を中心に全国に発展してきました。愛好者層は、中高年層はじめ10代の若者層まで広がってきており、最も耳にしやすいポピュラーな音楽です。また、ジャズはあらゆるポピュラー音楽の理論的な主柱になっています。例えば、R&Bはブルースにジャズやゴスペルが影響を与えた都会的な黒人系ポップスであり、ボサノバはブラジルのサンバにジャズハーモニーやアドリブの要素が融合されたものです。アルゼンチン・タンゴの革新的なものには同様なことがあります。

このように現在のポピュラー音楽は、大なり小なりジャズの理論と手法を取り入れ豊かに発展してきたものといえます。さらにジャズボーカルには、多様な英語表現が盛り込まれており、その表現を味わうことはいわばアメリカ文化の真髄を体得することにつながります。そして、楽器編成もソロ、コンボから大編成のオーケストラまで多彩な形態を楽しむことができます。本講座では2回にわたり多種多様な表情を持つジャズの魅力にせまります。

プログラムA…全8回

プログラムB…講義4回(4・6・9・11月)+12月ワークショップ

※試合日程の都合で4月と5月の内容を入れ替ることもあり得ます。ご了承ください。